

各位

上場会社名 株式会社ビーイング
 代表者 代表取締役社長 津田 能成
 (コード番号 4734)
 問合せ先責任者 経理部長 後藤 伸悟
 (TEL 059-227-2932)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成20年8月8日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成21年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成20年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	1,030	△190	△180	△190
今回発表予想(B)	923	△295	△275	△260
増減額(B-A)	△107	△105	△95	△70
増減率(%)	△10.4	—	—	—
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成20年3月期第2四半期)	958	△281	△270	△436

平成21年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成20年4月1日～平成21年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円
前回発表予想(A)	2,500	10	35	20
今回発表予想(B)	2,180	△285	△255	△250
増減額(B-A)	△320	△295	△290	△270
増減率(%)	△12.8	—	—	—
(ご参考)前期実績 (平成20年3月期)	1,833	△581	△556	△730

修正の理由

(1)第2四半期累計期間(平成20年4月1日～平成20年9月30日)の修正理由

売上高につきましては、建設業向けに展開しております「業務用アプリケーション」で、不動産業において特に顕著となっている信用収縮の影響、ならびにこの間の世界的な金融情勢の大きな変化などから、本年1月に投入した土木工事積算システムの最新版への更新を中心とする販売拡大が影響を受け、売上の回復速度が計画したものよりも遅れております。また、建設業にとどまらず製造業、研究開発分野、地方公共団体など幅広い産業に向けて展開している「TOC関連アプリケーション」においては、手厚い導入支援を行いお客様に運用効果を実感していただく戦略に手応えが出ており、さまざまな展開の芽が育ちつつあるものの、いまだ「業務用アプリケーション」の動向をカバーするには至っておらず、全体として計画を下回る見通しとなりましたので修正いたします。

営業利益につきましては、販売費及び一般管理費について徹底した見直し・削減を実施し、積極的な営業展開のための投資は維持しつつ、全体としてのコストを圧縮して参りました。これにより、販売費及び一般管理費についてはほぼ計画通りとなる見通しではありますが、売上高が計画した回復速度までには至らなかったことから修正をいたします。経常利益につきましては、上記理由に加えて金利動向が計画時より若干改善し、受取利息が当初見込みより増加したことを加味して修正いたします。当期純利益につきましては、上記理由に加えて、当社が提起していた訴訟が和解に至ったことにより受取和解金23百万円の特別利益があったことを加味して修正いたします。

(2)通期(平成20年4月1日～平成20年3月31日)の修正理由

売上高につきましては、第2四半期累計期間の要因が今しばらく続くことと見込まれることから、従来計画を修正いたします。「業務用アプリケーション」の分野で、上半期中に投入したものも含めて新商品投入による増収効果を新しい営業態勢のもとで実行に移し、また「業務用アプリケーション」と、「TOC関連アプリケーション」の新しいシナジーを積極的に活用することで、売上の回復のスピードを加速させる計画であります。

営業利益につきましては、商品力を強化するための開発投資を中心に、第2四半期累計期間よりもコストを投入する計画ではありますが、引き続き徹底したコスト削減を行うことで当初計画よりコストを削減できる見通しであり、売上高の計画と合わせて下半期における業績の改善につなげてまいります。

経常利益、当期純利益につきましても、第2四半期累計期間までの要因と、これらの要因を加味して修正いたします。

(注)上記の予想は、現時点で入手された情報に基づき判断した予想であり、実際の業績は今後様々な要因によって予想数値と異なる場合があります。なお、当社はパッケージソフトウェアの開発・販売を主たる事業としているため、当社の業績は売上高の増減がほぼそのまま営業利益に影響するという特徴があります。

以上